

1 学校教育目標
(ア) 「令和2年度(2020年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。 (イ) これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき、教職員が一体となって、家庭や地域との連携を深めるとともに、活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の重点目標
本年度教育スローガン 「夢実現・未来への挑戦」 ～「しなやかに生きる」～
① 生徒会を中心に学校行事の充実と生徒の主體的な学校生活への指導・助言を行う。 ② 生徒の職業観の涵養と就業率向上のための個に応じた情報の提供と学力定着の指導 ③ 保護者に対して、進路・保健だよりやHP等を通しての本校教育への理解と協力体制の構築

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	共通の課題解決に向け、職員間の情報の共有を図り、連携を密にする。	職員会議や各委員会、職員連絡会等での情報を周知徹底する。	A	毎日、職員連絡会で情報の共有を行い、連携した取組ができた。各々の職員間での情報伝達を更に密にしていく。
		職員研修の充実	人権教育、生徒理解(生徒指導・特別支援)、不祥事防止等で実施する。	総務部で年間計画を調整し各係が企画のうえ、全職員で実施する。		A
	安全な学校づくり	施設の安全確保	年間2回、安全点検表による点検を実施し、確認後すぐに危険箇所を改善する。	前期、後期に各1回、総務部が企画し、全職員で実施する。	A	年2回の安全点検を全職員で実施し、危険箇所を把握・改善することができた。
		緊急時の安全確保と緊急事態対応の徹底	危機管理マニュアルの周知徹底と安全意識の向上に取り組む。	救急救命講習や防災・防火訓練等を総務部が企画し、全職員・生徒で実施する。		A
業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保のための工夫	校務の精選等により、職員の時間外勤務時間を縮減し、法令で定められた上限を超えない状態をめざす。また、職員の担当する校務の平準化を図り、職員の負担感を軽減する。	衛生委員会において、職員の時間外勤務の情報共有を行い、運営委員会等で業務改善等を検討する。校務分掌の見直しや校務の負担の多い職員への支援を全職員で行う。	B	衛生委員会において、「玉名高校・玉名高校附属中学校、働き方改革宣言」を策定し、職員の意識改革及び協力体制の整備に取り組んだ。校務については校務分掌の見直しの検討を行い、業務の平準化を図った。しかし校務の平準化は完全には達成できておらず、次年度以降の課題である。	
学力	授業の充実	学習内容の充実	年間指導計画の完成度を高	年間指導計画をPDCAサイク		ICT機器の活用積極的に取り組んだ。ICT

向上			め教育課程に繋げる。 ICT機器を活用した授業推進のための環境整備を行う。	ルで見直す。 先生方に活用事例を出していただき、全職員で共有する。	A	機器の利用記録簿を見ると、昨年比1.5倍の利用状況である。同時にICT機器環境も着実に整備が進んでいる。
		研究授業の実施	「わかる授業」と「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、日々自己研鑽に努める。	公開授業や研究授業を行い、意見交換会等を通して情報を共有し研究を深める。	A	わかりやすい授業、興味を惹く授業等の実践のために、オリジナルプリント作成、視覚的に訴える資料の提示等、工夫・改善ができた。公開授業、研究授業等を通して、情報の共有も進みつつある。
		授業評価の実施	「わかる授業」の推進を検証し、学習内容の充実を進める。	生徒アンケートを実施し、授業や年間計画に生かせるように検証・分析を行う。	A	年2回（前期・後期）の授業評価アンケートを実施した。アンケート結果を分析シートに入力すると生徒の評価がグラフで確認できる。評価結果をふまえて、さらなる改善に努め、次年度に繋げたい。
	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	授業を通して、生徒の到達度の把握を行い、生徒の状況に応じた指導方法の工夫・改善に取り組む。	教科担当が学期ごとに指導状況を見直し、生徒各自の目標達成に向けて、工夫する。	B	生徒の特性を理解する会議を年に4回行った。生徒の特性にあった教授方法について、試行錯誤しながら、工夫・改善に努めた。今後は、専門的なアドバイスを頂きながら研究を深めていきたい。
キャリア教育 (進路指導)	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	玉名公共職業安定所と連携し、情報の入手および提供により、4年次生の年度内進路決定を目指す。	4年担任を中心に3者面談や面接指導等を全職員で取り組む。キャリアパスポートの活用として特別活動における感想文をまとめる。	B	4年次生4名の目標は各々明確であるが、12月末時点において進路先が確定した生徒は1名にとどまっている。残りの生徒の進路について年度内に決定するよう担任と継続して指導にあたる。キャリアパスポートの運用はできている。各クラスで活用方法などを研究する必要がある。
			個別面談等を通して就業を促し、生徒の就業率60%以上を目指す。	ハローワーク求人や生徒集会時に就業について啓発を行う。	B	約50%の就業率を推移している。今年度は、遠方からの通学者も多く、就労と勉強との両立が困難な生徒が多いことも目標に届かない要因と考える。
			個別学習会「玉定チャレンジ」を通して、基礎学力の向上及び進学指導を行う。また、各種資格の取得を促し、卒業時に履歴書に書け	進路指導部及び教科担当者が企画し、対象生徒の指導に取り組む。	A	12月末現在、基礎学力（数学・英語）を1名および資格取得に6名が指導を受けている。基礎学力については、1年次生のため、中学時の復習も含め、さらに外部検定に対応する指導を行っている。資格取得についても高学年を中心に目

			る資格が1つ以上あるようにする。			的意識を持ち、積極的に取り組むことができた。	
		キャリア教育の推進	就職希望者で就労未経験の生徒をできるだけインターンシップに参加させる。また、進学希望者はオープンキャンパス等を周知し参加を促す。	進路指導部で、積極的に集会時に参加を伝え担任と連携して取り組む。	B	新型コロナウイルス感染症拡大により、受入先の決定が困難であったことで、希望者数も例年より減少し、1名の生徒のみで実施した。オープンキャンパス参加の必要性については、生徒集会の際に生徒に伝えており、夏休みに数名の生徒が参加した。	
			就職ガイダンスや進路ガイダンス、マナー講座を実施し、8割以上の生徒の参加を目指す。	進路指導部が企画し全職員で取り組む。		A	今年度は休校と重なり、マナー講座は実施していない。しかし、就職ガイダンス（動画視聴）の中でマナー指導が含まれており代替できた。進路ガイダンスでは、事前アンケートで生徒の関心の高い4校の専門学校から講師を招聘することで、進学意欲の高揚につながることができた。8割の生徒が参加した。
				年間を通して、進路ニュースの発行を定期的に行い、保護者に送付する。	成績送付に同封してもらうように作成に努める。	A	年4回発行した。また、学校のHPを活用し、進路企画についての発信を行った。幅広く定時制の進路指導について周知ができた。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的な生活習慣の育成	挨拶、時間の厳守、問題行動の防止を進める。喫煙等の問題行動、盗難事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	全職員の共通理解と共通実践で取り組む。	C	休校から始まった影響もあり、生活習慣の確立に苦勞する生徒もあった。また問題行動も起こり、特別指導も行った。職員間で協力し、一つ一つ丁寧に対応した。今後も引き続き、生徒の成長を促していく。	
		交通安全意識の向上	登校指導を実施する。交通安全教室を実施し、交通事故事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画し、全職員で実施する。		A	毎日複数の教職員で登校指導・下校指導を実施した。大きな事故等は今年度起きていない。生徒会の生徒が挨拶に立つこともあり、大切な交流の場にもなっている。
		自主自律の精神の育成	学校行事に関して、生徒が主体的に取り組めるように、生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営を充実させる。	生徒指導部と生徒会が企画し全職員・生徒で取り組む。レクレーション等の行事の企画を生徒が主体性を持って取り組めるように助言する。		B	様々な行事について、実施の可否含めて判断が難しかったため、生徒会に企画・運営を任せるとを躊躇してしまい、生徒の自主性を引き出す取り組みとしては課題が残った。そんな中でも自分たちができることを探し自主性を発揮して様々な提案をくれた生徒もあり、次年度はそのような声を

人権教育の推進	「命を大切に 心を育む」指導の 充実	職員研修の推進	年間計画を作成し、全職員で研修に参加することで、人権意識の向上と適切な対応能力を身に付ける。	人権教育係が立案し、全職員で取り組む。	B	生かす場をさらに作って いきたい。 事前に今年度の予定される外部研修について周知をし、参加を募った。先生方の協力を得られたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となることが多く、研修の機会が失われたことは残念であった。
		ホームルーム活動、教科指導における取組の推進	ホームルーム活動を中心に、各教科における人権教育の取組を行う。	教頭、人権教育係を中心に全職員で取り組む。	B	今年度は、各クラスごとに担任を中心に計画案を作成・実施した。クラス独自のHRがきわめて少ない中で、有意義な時間となった。
		家庭への啓発の推進	人権関連の案内や定時制保護者会さらに啓發文書の送付に努める。	人権教育係で企画・立案し学校全体で取り組む。	A	DVや児童虐待防止の公文を保護者へ周知した。また、自殺予防のために、24時間SOSダイヤルについて、長期休業前の生徒集会時に啓発した。
		指導内容の工夫と推進	「命を大切に心を育む」を育む指導プログラムに基づいて指導を実施する。	人権教育係と生徒指導部で企画・立案し、学校全体で取り組む。	A	他人への思いやりを育むためのゲーム（マシュマロチャレンジ）を実施し、人と協力することの大切さを指導した。
いじめの防止等	いじめ問題への対策	いじめが起きないための日常的取組の推進	生徒が互いに思いやり、認め合える人間関係を醸成し、いじめを見逃さない体制作りを推進する。いじめ事案の発生件数を「0」を目標に取り組む。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。ホームルーム活動でいじめ問題について取り上げる。いじめ発見のためのアンケート等を実施する。	B	日頃の生徒指導を通じていじめの防止に努めた。アンケート実施によっていじめ事案の発生を確認した。関係職員を中心に速やかに実態を把握し、いじめ解消に向けた指導を行った。今後もいじめが継続しないよう全職員で指導を続けていく。
		職員の資質能力の向上	いじめ、カウンセリング、生徒理解やネットいじめ等に関する校内研修を推進する。	生徒指導部、人権教育係及び保健環境部で連携し、学校全体で取り組む。	A	各分掌と連携して生徒理解研修を2回、ネットいじめ研修を1回実施することができた。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。いじめ発見シートの説明を行う。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。	B	今年度は感染防止の観点から外部講師の招聘を避け、育友会役員に講話を依頼し、実施した。いじめ発見シートは年度内に実施予定である。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適	個々の生徒の正確な実態把握と支援	支援の必要な生徒に対して支援計画、指導計画を作成	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、	C	支援の必要な生徒への支援はできているが、支援計画、指導計画の立案については、十分ではなか

	切な対応		し活用する。各種研修への参加や校内研修を推進する。	連絡会等を利用して、生徒の困り感を持つ生徒を全職員で支援する。		った。校内研修も実施できていない。
保健環境指導	健全な心身の育成	心の悩みを持つ生徒の把握	担任や各部と連携し、面談の機会を増やす。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	B	担任やそれぞれの部署で面談を行い、生徒の心理面の把握に努めることができた。
		健康診断後の治療率向上	健診結果を基にした自己の健康の保持増進や治療の促進を行う。	保健環境部が企画し、全職員で取り組む。	B	4月当初の健康診断は、休校により、実施が6月となったが、夏休み前に事後措置を実施し、治療につながった。
		啓発活動の推進	感染症予防や環境問題を含む保健だよりを年5回発行する。	心のケアの方法や生活習慣調査結果などを盛り込み定期的に発行する。	B	保健だよりではの発行はできていないが、生徒集会時に、社会的距離や手洗いなどについて啓発できた。
		外部講師による講演会の実施	薬物乱用防止教室（年1回）や性教育講演会（年1回）を開催する。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	A	薬物乱用防止教室と性教育講演会も実施できた。
環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進	職員清掃日（毎週月曜）、定期清掃日（毎週木曜）を定める。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で実施する。	A	これまでの取組で、職員清掃、生徒清掃も定着した。	
	学校版環境ISOへの取組	学校版環境ISOを周知し、実践できるように工夫する。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で取り組む。生徒保健委員会で牛乳パック等を回収しリサイクルに出す。	A	年度当初に、生徒にも学校環境版ISOを周知させ、ゴミの分別もできるようになってきている。補食給食の牛乳パックは、洗って、紙ごみとして出している。	
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	情報発信	情報の発信	学校HPの充実	学校HPの行事ごとの更新と内容の充実に取り組む。	B	情報管理部の協力を得て行事ごとに担当者からの文章や写真等を掲載している。
	連携の強化に向けた取組	保護者との連携	保護者会（7月）の内容を工夫・改善し、出欠の返答（54.8%）ならびに参加率（25.8%）を前年度より向上させるよう啓発する。	総務部が企画し、全職員で取り組む。	B	7月の定時制保護者会では全家庭から出欠返答を頂き、参加予定者は12名（34.3%）であったが、コロナ禍もあり、実際の参加は9名（25.7%）であった。今後は家庭とのさらなる連携を図ることが課題である。
		地域との連携	育友会会長（社会福祉法人に勤務）を講師として招き、保護者とともに思春期の	総務部、生徒指導部、情報管理部が連携して計画し、7月開催の定時制保護者会	A	定時制保護者会では、本校育友会会長（社会福祉法人子ども家庭支援センター長）から講演を実施して頂き、保護者・職員から高い評価を得た。ま

			生徒への対応や情報モラル教育等についての研修を実施する。防災型コミュニティ・スクールの活動とおして、地域との連携を深める。	で実施する。学校運営協議会において昨年度に引き続き大規模災害時の連携・対応マニュアルを検討する。		た情報モラル研修は、パワーポイントを活用し、情報管理部担当者が実施した。11月下旬に北稜高校で行われた学校運営協議会では、防災関係マニュアルについて協議された。
--	--	--	---------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------	--	----------------------------------------------------------------------------------

<p>4 学校関係者評価</p> <p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が全員毎日登校してくれることを願っています。 ・荒玉地区に無くてはならない所だと思います。教育の灯が消されないようによろしくお願いします。 ・定時制の学校評価アンケートについて、先生方の自己評価は厳しかったが、生徒や保護者からは高い評価がなされていた。先生方の御指導の成果だと思う。 <p>【学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使いこなせなければ、仕事に就くことも難しいようです。生徒達がICTに少しでも興味を持ち学んでくれることを信じています。 ・就労と勉強の両立は困難と思うが、色々な生活背景の生徒の学びの場として貴重な時間と思われるが、先生方の取組が大変きめ細やかだと思います。 <p>【キャリア教育の推進（進路指導）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得は大変ですけど、将来を考えると大事なことだと思います。子供達が希望する道に進めるよう願っています。 ・コロナ禍で、できる範囲で工夫され、生徒の将来への力になるよう努力されていると感じた。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣のできていない生徒に対する指導は大変だと思います。よろしくお願いします。 ・色々なことが中止になり、先生も生徒も大変な一年だったと思います。その中で生徒のやる気や自立性を尊重することは大変だと思います。工夫しながら進めてほしいです。 ・コロナ禍の休校の中から始まった新学年ですので、日頃より御指導が大変だったと思います。挨拶などの基本的な生活習慣の確立はとても大切なことだと思います。 <p>【保護者・地域住民との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の中、育友会と同窓会が連携し、早急に必要とされたWi-Fi環境の整備を行った。今後も連携して学校を盛り立てていきたい。 ・学校と育友会（保護者）のキャッチボールということで、特に災害時や緊急時の情報発信の面（ホームページや安心安全メールによる迅速な連絡・対応）が、よりよい方向に進んだ。 ・コロナ禍の中で、いろんなボランティアに参加してその地域の中に身を置いてみることは、子供が成長する上でとても大事なことだと思う。 ・コロナ禍で、今年度は実施できなかった行事が多かった。今後への引き継ぎが生徒も保護者も課題であるが、育友会もより一層協力していきたい。

<p>5 総合評価</p> <p>本年度の教育スローガンは「夢実現・未来への挑戦 ～しなやかに生きる～」とした。</p> <p>【学校経営】</p> <p>職員対象のアンケートでは、学校の組織力の向上、授業の充実、個に応じた学習指導の項目において、肯定的評価が上昇した。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、例年と異なる形での行事や取組が多くなる中、様々な場面でICT機器の活用が進んだ。</p> <p>【学力向上】</p> <p>個々の学力差が大きいいため、一人一人の学力に合わせた個別の学習指導を各担当が工夫しながら指導している。希望する生徒に対しては、玉定チャレンジ（始業前の個別指導）で大学進学対策、資格取得を継続的に実施した。</p>

【キャリア教育の推進（進路指導）】

学校評価アンケートの進路指導に関する項目は、職員においては否定的評価が多かったが、保護者・生徒において肯定的評価が上昇した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、医療関係等の職場体験実習が実施できなかったが、進路ガイダンス（職業理解講座）を実施して、生徒の進路希望に応じた適切な指導の充実が図れた。

【生徒指導】

遠距離からの通学手段としてバイク・自動者通学を許可しているが、交通違反・交通事故等は無かった。若駒祭（文化祭）は新型コロナウイルス感染防止に留意しながら生徒会を中心に開催することができた。

【人権教育の推進】 【いじめの防止等】

新型コロナウイルス感染症に起因する偏見や差別が生じないように十分配慮しながら、適切に指導することができた。いじめ問題については、何気ない発言や行動が他者に嫌な思いをさせていることに気づかせることなど、継続的な指導が必要である。生徒の些細な行動変化を見逃さず、職員が情報共有を行い、いじめの未然防止、早期発見に努めたい。

【保護者・地域住民との連携】

育友会及び同窓会と連携していただき、ICT環境の整備や生徒激励のための行事等を実施していただいた。

新型コロナウイルス感染症拡大により、状況の変化に早急に対応しなければならない場面が多かったが、全職員で連携し工夫しながら学校の教育活動を充実させることができた。準備を進めながらも、中止となる行事が多かったため、評価できない項目が数項目あったが、本校の教育目標の達成に向け、各担当部署を中心に、学校評議員の御意見や学校評価アンケートの結果などを参考にしながら積極的に取り組むことができた。次年度以降も、今年度までの取組を継承しつつ、その効果について検証し、改善を図っていくことが必要である。

6 次年度への課題・改善方策

第1の課題は、「授業改善」である。一人一台端末整備に係る先行実践校となり、全職員で取組の充実等を進めていく必要がある。先生方にはICT機器を活用した授業の工夫に積極的に取り組んでいただく。改善方策としてICT担当を任命し、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて授業改善を推し進めたい。

第2の課題は、「特別な支援の必要な生徒への対応」である。ユニバーサルデザインの視点に立った授業での配慮を全職員で実践していく必要がある。改善方策として、個別の支援計画・指導計画を作成し、生徒理解研修等を通して、個々の生徒に対する職員の共通理解を深め、適切な支援を行っていく。また、職員研修（特別支援学校からの講師招聘等）を実施して職員の特別支援教育への理解を深める。

第3の課題は「進路目標の実現」である。一部の1年生の学校生活に落ち着きが見えず、出席状況も悪く、授業等に積極的に参加できない生徒がいた。自分の将来の目標をしっかりと持たせる必要がある。改善方策として、生徒の情報を職員全員で共有し、きめの細かい対応をすることで、特に低学年から進路目標を明確に持たせ、その実現に向けて、インターンシップ等の就労体験や玉定チャレンジ等への積極的な参加を促し、低学年からの継続的な進路指導を組織的に実践して、生徒の進路目標の実現に繋げていきたい。

第4の課題は「保護者との連携、中学校との連携」である。行事等に関する生徒及び保護者への連絡は、書面だけでなく担任からの電話連絡も行っている。また出欠状況についても、担任が保護者と電話連絡を取っており、生徒の学校での様子を保護者に伝えている。しかし、生徒と保護者との関係が良好でない場合は、生徒の出席状況等の改善に繋がらないことも多い。改善方策として、家庭訪問や三者面談等を積極的に計画したい。また、中学校との連携を更に充実させ、積極的に中学校への情報発信し、更に本校定時制教育への理解を深めていきたい。